

### 43. だいこん

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) Zボルドー	散布	-	-	野菜類(キャベツを除く)
	ドイツボルドーA	散布	-	-	野菜類
31	スターナ水和剤	散布	収穫14日前まで	5回以内	
M5	ダコニール1000	散布	収穫45日前まで	3回以内	
39	ハチハチ乳剤	散布	収穫30日前まで	1回以内	
M1	ヨネポン水和剤	散布	収穫7日前まで	4回以内	
21	ランマンフロアブル	散布	収穫3日前まで	3回以内	

・殺菌剤(参考農薬)

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
NC+M1	ジーファイン水和剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類(なすを除く)
M1	(銅水和剤) コサイド3000	散布	-	-	野菜類

・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオン乳剤	散布	収穫30日前まで	4回以内	
4	アドマイヤー1粒剤	播溝土壌混和	は種時	1回	
1	カルホス粉剤	土壌表面散布土壌混和処理	は種時	1回	
13	コテツフロアブル	散布	収穫14日前まで	2回以内	
5	スピノエース顆粒水和剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
1	ダイアジノン粒剤3	土壌混和	は種時	1回	
11	トアローフロアブルCT	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	野菜類
3	フォース粒剤	播溝土壌混和	は種時	1回	
4	ベストガード水溶剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
3	マブリック水和剤20	散布	収穫14日前まで	2回以内	

・殺虫剤(参考農薬)

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
6+15	アフームエクセラ顆粒水和剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
14	パダンSG水溶剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
UN	プレオフロアブル	散布	収穫14日前まで	2回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
萎 黄 病 (F)	は 種 前	1. 抵抗性品種を採用する。 2. 土壌消毒する。土壌消毒の項を参照し、登録薬剤を用いる。 3. 発病地では連作をしない。	1. 抵抗性品種を用いれば、概ね土壌消毒は必要ない。
白 さ び 病 (F)	生 育 期 間	1. ダコニール1000の1,000倍液、ハチハチ乳剤、ランマンフロアブルの2,000倍液のいずれかを散布する。  [参考農薬] 1. ジーファイン水和剤の1,000倍液を散布する。	1. ハチハチは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 2. ジーファインは高温下、連続散布で薬害が発生する恐れがある。
軟 腐 病 (B)	生 育 期 間	1. ヨネボン水和剤、Zボルドー500倍液、ドイツボルドーAの500~1,000倍液、スターナ水和剤1,000倍液のいずれかを散布する。  [参考農薬] 1. コサイド3000の2,000倍液を散布する。	1. 早まきしたり、高温・多湿が続くと多発する。
ネグサレ センチュウ	は 種 前	1. 土壌線虫の項を参照する。	
アブラムシ類 (ウイルス媒介)	は 種 時	1. シルバーストライプフィルムをマルチする。 2. アドマイヤー1粒剤を10a当り6kg播溝に施用し、土壌混和する。	1. 春は晩まき、秋は早まきで被害が大きい。 2. アディオン、マブリックは蚕毒及び魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 3. はくさいのウイルス病が伝染源になることがある。
	生 育 前 半	1. ベストガード水溶剤1,000倍液、アディオン乳剤3,000倍液、マブリック水和剤20の4,000倍液のいずれかを散布する。	
キスジノミ ハムシ	は 種 時	1. フォース粒剤を10a当り4kg播溝に施用し、土壌混和する。	1. フォースは蚕毒及び魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
コ ナ ガ	生 育 期 間	1. トアローフロアブルCTの1,000倍液、コテツフロアブル2,000倍液、スピノエース顆粒水和剤5,000倍液のいずれかを散布する。  [参考農薬] 1. アファームエクセラ顆粒水和剤1,500倍液を散布する。	1. アファームエクセラ、スピノエースは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 2. コテツは、7葉期以前に散布すると白化を生ずる場合があるので、8葉期以降に散布する。
タ ネ バ エ	は 種 時	1. ダイアジノン粒剤3を10a当り5~8kg散布後、土壌混和する。	
ネキリムシ類 (カブラヤガ)	は 種 時	1. カルホス粉剤を10a当り6kg土壌表面に散布し、土壌混和处理する。	
カブラハバチ	生 育 期 間	[参考農薬] 1. パダンSG水溶剤1,500倍液、またはプレオフロアブル1,000倍液を散布する。	1. パダンは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。

【別表】 殺虫剤の使用方法及び効果（表中の登録内容は令和6年11月30日現在）

系 統	I R A C コード 1)	薬 剤 名	希・ 積 処 倍 理 数 量	使 用 時 期  (収穫前日数) (以内)	本 剤 の 使 用 回 数 (以内)	薬剤の使用と効果						
						ア オ ム シ	コ ナ ガ	ア ブ ラ ム シ 類	カ ブ ラ ハ バ チ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	タ ネ バ エ	ネ キ リ ム シ 類  (カブラヤガ)
有機リン剤	1	カルホス粉剤	6kg/10a	は種時	1						○	○*
		ダイアジノン粒剤3	5~8kg/10a		1						○*	
合成ピレスロイド剤	3	アディオン乳剤	3,000倍	30日	4			○*				
		フォース粒剤	4kg/10a	は種時	1				○*	○ 2)	○ 2)	
		マブリック水和剤20	4,000倍	14日	2			○*				
ネオニコチノイド剤	4	アドマイヤー1粒剤	6kg/10a	は種時	1			○*				
		ベストガード水溶剤	1,000倍	7日	3			○*				
B T 剤	11	トアローフロアブルCT	1,000倍	前日	—	○ 3)	○* 3)					
ネトキサリスン系	14	パダンSG水溶剤	1,500倍	7日	3	○	○	○	○	○		
その他	5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	7日	3	○	○*			○		
	6+ 15	アフームエクセラ顆粒水和剤	1,500倍	14日	3	○	○					
	13	コテツフロアブル	2,000倍	14日	2	○	○*					
	UN	プレオフロアブル	1,000倍	14日	2	○	○		○			

【効果凡例】

- \*：効果ある（対象害虫に普及済み）
- ：効果ある（対象害虫に未普及）
- △：効果劣る

- 1) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「IRACコード」を参考にしながら他コードの薬剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
- 2) 播溝土壌混和
- 3) 野菜類で登録

【注】

1. 合成ピレスロイド剤は蚕毒及び魚毒に、ハチハチ、スピノエースは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。